

登録精神腫瘍医申請における症例リスト作成の手引き

申請に必要な症例リストの記載方法について、以下の指針に従って作成してください。

1. 対象症例の範囲

過去5年以内に対応した症例の中から15例を選択し、様式4に基づいて記載してください。

2. 必要な情報

各症例について、以下の項目を含めて記載してください。

- 年齢
- 性別
- がんの診断名
- 精神医学的診断名およびコード（米国精神医学会の診断基準であるDSM5（TRも可）か、WHOの国際疾病分類であるICDに基づく）

3. 症例選択のポイント

- 記載する症例は、がん診療において精神的苦痛に対応した経験を示すものとしてください。
- 精神医学的診断名は、がん診療における精神的苦痛で多くみとめられる適応障害、うつ病（大うつ病）、せん妄、認知症など、バランスよく選択してください。
診断名が特定のものに偏らないよう注意してください（例：15例中ほとんどがせん妄のみで構成されないようにする）。
- 診断基準を満たさない精神心理的苦痛や正常反応への対応症例も含めて構いません（この場合、診断名には「正常反応」と記載し、コードは不要です）。ただし、正常反応に関する症例は7例以内としてください。
- 申請者が精神科や心療内科以外を専門としており、精神科や心療内科へ紹介後に精神医学的診断名が確定した場合でも、症例として含むことが可能です。
- 診断が未確定の場合は「うつ病（疑い）」のように記載することが可能です。

4. 認定基準

本学会では、がん診療における精神的苦痛への対応経験を重視して認定を行います。バランスの取れた症例選択を行い、幅広い対応力をアピールできるよう工夫してください。

2025年1月